

あと。らんだむ

西尾 毅

クルマの免許をとってから、すでに半年が過ぎた。自動車というのも仲々いい。距離がかせげるうえに、あつて結構狭い地道だつて上れるのだ。自力本願か他力本願か、などとよく言われるけれど、林道などへ入ってみると、自転車は仲々大変だし、スポーツをしているかのような感じさえ抱くものなのである。

それでは、クルマと自転車の違いは何かというと、それは第一に素朴さであると思う。田んぼの真ん中を、ゆるやかな弧を描いて伸びる道、農家の木々が影を落とす道々、そんな道を気ままに走るのが僕は好きだ。

ポタリング、という言葉がある。これはデントリングでもなければ、むしろファストランでもない。僕はこの「ポタリング」というのは、自転車による散歩だと思っている。自然と自分がいつに感じられる、などとよく言うが、僕にとって「ポタる」とは、まさにその感覚なのである。

この「ポタリング」こそが、我がサイクリングの根源なのだが、そうそうポタってばかりもいらぬない。ここに体力の問題が出てくるのである。体力は自分自身にもズレをもたらす。では、その体力をどう補うか。ここにクルマとのもう一つの相異点、則ち「気合」という問題が出てくるのである。

「気合」の入り方も人さまさまだが、ここでは、僕の場合につ

いて書いてみたい。

サイクリングを始めた頃、しばしば「気合」の対象となったのは、いわゆる「高級車」に乗った連中であつた。当時、愛車はヤマハ・スポーツ車で、4年も使つたものだったので、「高級車」というよりは、「新車」といった方が適当かもしれない。とにかく、そういう奴には負けまいと思つた。こういう気合の入れ方をすると実に速い。実際、距離的にみれば、1日の走行距離は遙かに長く、速度もその頃の方が速かつたような気がする。

そうこうするうちに、新車を買つた。この瞬間から、僕は追う立場から追われる立場に一変し、「高級車」はもはや標的ではあり得なくなつた。しかし、本質的には「Challenge」が、「気合」の原動力だつたことに変わりはないと思ふ。

このように、クラブに入るまでの僕のサイクリングは「素朴、AND ガッツ」というようなものだつた。今でも、願望としては、サイクリングはこうありたいと思つている。願望として、というのは、実は、クラブに入つてからというもの、グループツアーになれなくなってしまつて、ソロで出かける気がしないのである。サイクリングのよさはその素朴さにあつて、それを追求するためには、ソロが一番いいのではないかという気もするけれど、夜は寂しいし、峠で喜びを分かち合う相手がいないうのはつらいし、というわけで「気合」がはいらすに在る諷刺です。

さて、この「気合不足」を解消して、サイクリングに誘うものは「出会い」である。出会い、というのは自然でも人間でもいい。何かしら、新しいものにふれたときの感動は、大きな魅力だ。

「遠くに行こう」などの番組で、女の子がいろいろ飛び回っているが、あんな仰々しい「出会い」でなくていい。ただ偶然に、というのが一番いい。最近、合宿に「名勝めぐり」みたいな要素が、少し多くなってしまったような気がする。いざ、行ってみて、あまりいい所ではないと、「人が多いなあ」とか「三ッボイなあ」などといって、ガッカリしてしまうのだが、これは考えてみれば虫のいい話なのかもしれない。

最後に、合宿について。合宿は楽しくなくてはいけない。部室の延長というより、飲み屋の延長の方がいい。その点、サイクリングにこだわらなくてもいいと思う。もし、自分のサイクリングを考えてみたくなったら、合宿と離れてやってみるといい。比較対照というのは、実に有効な手段だと思う。

いろいろと書いてきたが、要するに、自転車が好きで、これからも続けていくためにはどうしたらいいか、といったことを考えて書いてみたつもりだ。自分自身と相談して書いたもので、何を話しているか分からないところもあるでしょうが、そこは読み飛ばして下さい。

以上